

三井不動産 柏の葉キャンパスシティ
プロジェクト推進部事業グループ統括 中田 聖志氏 (40)



「柏の葉フューチャービレッジ」

現地に張り付き
 壮大な計画推進

の葉ギヤバは駅を中心とするエリアで、世に三井不動産はよくつくばるが、このエリアは葉ギヤバの都市圏を拒否する。柏の葉国際葉ギヤバタウン構想のもと「環境・健康・交通・交流」をキーワードに、千葉県市川市東大塚駅を起点とする。同公社の葉ギヤバ開発計画も推進しない。同じ公社の葉ギヤバステープロジエクト推進部部長グループの砂田・中田・志志氏(40)は、今後大規模宅地開発を断念し、約半年前から「新たな郊外開発モデル」として位置づけられてきたこのヒコグロシタを拒否している。

「これは新たな同
のモデル事業
だ。つくば
エクスプレ
ス「柏の葉
キャンパス
駅」を中心
に約273
ヘクタール
の区画整理
事業が行わ
れている
が、その将
来像を描く
グランドデ
ザインが

[illegible]

「聖志は大器晩成を願って母が付けたようです」

ークシティ柏の葉キャンパス一番街」が全体竣工した。市場急変を受けて沿線のマンションは惨敗し、値下げも日常茶飯だが、同社のマンションは順調な売れ行きを見せている。

「中長期に



“元氣印”
人と企業

「中長期にわたって街の価値を高めていく」

「**新たな郊外開発のモデル**」

の東の隣接地（147街区・148街区）では引き続き開発計画を推進中だ。駅前の148街区では、約900戸の分譲住宅・賃貸住宅のほか、ホテルや商業施設、オフィスを計画しており、東大の研究施設も整備される予定だ。147街区では、約900戸の分譲マンションの工事に昨年着手した。

また、昨年5月には同社の現地事務所を併設した「柏の葉フューチャーレジ」を開業した。この施設は、緑豊かな環境に施された施設であるだけでなく、住居や健康を重視して、コンビニ形成を園場としての機能も兼ねている。

TXは環境に敏感な日本人の消費行動計画がある。これは柏の葉が異なる立場のすべてが共通のコンセプトに基づいて書くのを求めている。それは他にない。同社は柏の葉キャンパスの街づくりには、田舎ではじめる10数人のスタッフで、

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力的な街づくりを行い、中長期的にわたって街の価値を高めていくのがわれわれの役割。また、行政、大学、地元、それぞれが連携し、新たな都市の姿を創出する。」

同社は10年後、20年後、さらにもっと先の将来を見据えている。

